

# 四半期報告書

(第154期第1四半期)

自 平成23年4月 1日

至 平成23年6月30日

保土谷化学工業株式会社

東京都港区芝公園二丁目4番1号

# 目 次

頁

【表紙】	
第一部 【企業情報】	
第1 【企業の概況】	
1 【主要な経営指標等の推移】	1
2 【事業の内容】	2
第2 【事業の状況】	
1 【事業等のリスク】	3
2 【経営上の重要な契約等】	3
3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】	3
第3 【提出会社の状況】	
1 【株式等の状況】	
(1) 株式の総数等	5
(2) 新株予約権等の状況	5
(3) 行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等	5
(4) ライツプランの内容	5
(5) 発行済株式総数、資本金等の推移	6
(6) 大株主の状況	6
(7) 議決権の状況	6
2 【役員の状況】	6
第4 【経理の状況】	7
1 【四半期連結財務諸表】	
(1) 四半期連結貸借対照表	8
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	10
四半期連結損益計算書	10
四半期連結包括利益計算書	11
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	12
2 【その他】	20
第二部 【提出会社の保証会社等の情報】	20

四半期レビュー報告書

確認書

## 【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成23年8月11日
【四半期会計期間】	第154期第1四半期（自 平成23年4月1日 至 平成23年6月30日）
【会社名】	保土谷化学工業株式会社
【英訳名】	Hodogaya Chemical Co., Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 喜多野 利和
【本店の所在の場所】	東京都港区芝公園二丁目4番1号
【電話番号】	(03)6430-3600
【事務連絡者氏名】	経営企画部長 松野 眞一
【最寄りの連絡場所】	東京都港区芝公園二丁目4番1号
【電話番号】	(03)6430-3631
【事務連絡者氏名】	経営企画部長 松野 眞一
【縦覧に供する場所】	保土谷化学工業株式会社大阪支店 (大阪市中央区高麗橋四丁目1番1号) 株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

連結経営指標等

回次	第153期 第1四半期連結 累計期間	第154期 第1四半期連結 累計期間	第153期
会計期間	自 平成22年4月1日 至 平成22年6月30日	自 平成23年4月1日 至 平成23年6月30日	自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日
売上高 (百万円)	7,408	8,510	33,440
経常利益 (百万円)	185	330	1,796
四半期(当期)純利益 (百万円)	60	932	563
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	△135	951	695
純資産額 (百万円)	26,299	28,030	26,971
総資産額 (百万円)	49,170	51,113	48,225
1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	0.77	11.78	7.12
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益 (円)	0.76	11.77	7.12
自己資本比率 (%)	52.9	53.1	54.9
営業活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	899	940	3,648
投資活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	△94	△1,668	△2,224
財務活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	△634	673	△3,495
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高 (百万円)	8,729	6,440	6,476

(注1) 売上高には、消費税等は含まれておりません。

(注2) 四半期連結財務諸表規則第5条の2第2項により、  
四半期連結キャッシュ・フロー計算書を作成しております。

(注3) 第153期第1四半期連結累計期間の四半期包括利益の算定にあたり、  
「包括利益の表示に関する会計基準」(企業会計基準第25号 平成22年6月30日)を適用し、  
遡及処理しております。

## 2 【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）は、事業拡大に伴い、関係会社に異動がありました。

### 〈機能性色素セグメント〉

SFC Co., Ltd. の株式を追加取得し、従来の関係会社から連結子会社といたしました。  
これは、有機ELの主要マーケットである韓国において、開発・生産・販売面で優位に展開し、さらには、顧客情報収集力、提案力、購買・生産面などで連携強化が図れることから、判断したものであります。

### 〈アグロサイエンスセグメント〉

株式会社日本グリーンアンドガーデンを、会社分割と株式売買の方法により、保土谷アグロテック株式会社と分割後の株式会社日本グリーンアンドガーデンに、再編いたしました。  
これに伴い、分割後の株式会社日本グリーンアンドガーデンは関係会社から外れ、新たに保土谷アグロテック株式会社が連結子会社となりました。  
これは、非農耕地分野における農薬・資材事業の更なる強化・発展が図れることから、判断したものであります。

また、韓国において、保土谷化学韓国株式会社を設立し、連結子会社といたしました。  
これは、韓国現地に密着した迅速な営業活動を展開するため、連絡事務所から営業活動拠点の体制とし、機能の強化・拡充を図ることから、判断したものであります。

この結果、平成23年6月30日現在、当社グループは、当社および連結子会社10社、子会社2社、関係会社3社により、構成されることとなりました。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。  
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

### 2【経営上の重要な契約等】

当社は、4月25日開催の取締役会において、大韓民国のSFC Co., Ltd.（以下、SFC社）の株式を追加取得し、50%超の株主となることを、SFC社およびSFC社の主要株主と合意のうえ、決議いたしました。

### 3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

#### (1) 経営成績の分析

当第1四半期連結累計期間の事業の概要は次のとおりです。

##### 〔機能性色素セグメント〕

電子材料事業は、顧客の需要鈍化や、円高および価格競争の激化により、減少いたしました。  
色素材料事業は、紙パルプ用・繊維用染料が、長期低迷傾向の継続により、減少いたしました。アルミ着色用・文具用染料が、海外需要の伸長で増加したことにより、前年同期並みとなりました。  
有機EL材料事業は、モバイル用ディスプレイ向けの需要が伸び、増加いたしました。  
以上の結果、当セグメントの売上高は、22億88百万円となり、前年同期比8百万円(0.4%)の減収となりました。

##### 〔機能性樹脂セグメント〕

樹脂材料事業は、PTG（ウレタン原料）が、国内・海外とも需要が伸びたことに加え、接着剤もアジア向け輸出が好調に推移したことにより、増加いたしました。  
特殊化学品事業は、樹脂関連・医薬品分野とも需要が伸び悩んだことにより、前年同期並みとなりました。  
建築材料事業の材料販売は、ウレタン系防水材分野で、依然として厳しい価格競争が続いており、減少いたしました。  
一方、防水・止水工事は、防水工事の大型物件の獲得があり、増加いたしました。  
以上の結果、当セグメントの売上高は、28億1百万円となり、前年同期比3億29百万円(13.3%)の増収、となりました。

##### 〔基礎化学品セグメント〕

過酸化水素は、主力の紙パルプ・工業薬品分野とも、東日本大震災の影響による需要の落ち込みで、減少いたしました。  
過炭酸ソーダも、同様の影響で、生産の復旧が遅れたことに加え、一時的に海外品の流入が増加し、減少いたしました。  
以上の結果、当セグメントの売上高は、18億56百万円となり、前年同期比2億15百万円(10.4%)の減収、となりました。

##### 〔アグロサイエンスセグメント〕

アグロサイエンス事業は、昨年の春先のような天候不順の影響がなく、家庭園芸用および農耕地用除草剤の需要が回復したことに加え、関連会社の再編に伴う連結子会社化により、増加いたしました。  
以上の結果、当セグメントの売上高は、12億38百万円となり、前年同期比10億30百万円(497.2%)の増収、となりました。

上記の結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は、85億10百万円となりました。  
また、損益面では、営業利益4億11百万円、経常利益3億30百万円、四半期純利益9億32百万円となりました。

(2) 財政状態の分析

当第1四半期連結会計期間末（6月末）における資産合計は、511億13百万円となり、前連結会計年度末（3月末）比28億87百万円の増加となりました。

資産の増加の主な要因は、投資有価証券が11億20百万円、有価証券が5億円減少した一方で、無形固定資産の増加22億84百万円、たな卸資産の増加15億45百万円によるものです。

負債は、前連結会計年度末比18億28百万円の増加となりました。

その主な要因は、短期・長期借入金の増加14億70百万円、支払手形及び買掛金の増加4億70百万円、によるものです。

純資産は、前連結会計年度末比10億58百万円の増加となりました。

その主な要因は、利益剰余金の増加6億15百万円、少数株主持分の増加4億10百万円によるものです。

以上の結果、自己資本比率は53.1%となりました。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第1四半期連結累計期間末の現金及び現金同等物は64億40百万円となり、前連結会計年度末に比べ、36百万円減少いたしました。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは、仕入債務の減少及び法人税等の支払等による支出を、売上債権の減少等による収入が上回り、9億40百万円の収入となりました。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは、連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出等により、16億68百万円の支出となりました。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは、長期借入金の借入による収入等により、6億73百万円の収入となりました。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、当連結会社の事業上及び財務上の対処すべき課題に、重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(5) 研究開発活動

当第1四半期連結累計期間の研究開発費の総額は、3億30百万円であります。

(6) 従業員数

当第1四半期連結累計期間において、当社グループは事業拡大に伴い、関係会社に異動がありました。これにより、機能性色素セグメントの従業員数は、SFC Co., Ltd. の連結子会社化により、該従業員57名が増加いたしました。

アグロサイエンスセグメントの従業員数は、保土谷アグロテック株式会社の連結子会社化により、該従業員15名が増加いたしました。

以上の結果、平成23年6月30日現在、当社グループの従業員数は727名（平成23年3月31日時点：628名）、となりました。

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### ①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	200,000,000
計	200,000,000

###### ②【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成23年6月30日)	提出日現在発行数(株) (平成23年8月11日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	84,137,261	84,137,261	東京証券取引所 市場第一部	単元株式数は1,000株 であります。
計	84,137,261	84,137,261	—	—

##### (2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

## (5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成23年4月 1日～ 平成23年6月30日	—	84,137	—	11,196	—	7,093

## (6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

## (7) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の議決権の状況については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができません。

従って、直前の基準日である平成23年3月31日の株主名簿により、記載しております。

## ① 【発行済株式】

平成23年3月31日現在

区分	株式数 (株)	議決権の数 (個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式 (自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式 (その他)	—	—	—
完全議決権株式 (自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 5,033,000	—	—
完全議決権株式 (その他)	普通株式 78,271,000	78,271	—
単元未満株式	普通株式 833,261	—	—
発行済株式総数	84,137,261	—	—
総株主の議決権	—	78,271	—

## ② 【自己株式等】

平成23年3月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数 (株)	他人名義所有 株式数 (株)	所有株式数の 合計 (株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合 (%)
(自己保有株式) 保土谷化学工業株式会社	東京都港区芝公園 二丁目4番1号	5,033,000		5,033,000	5.98
計	—	5,033,000		5,033,000	5.98

## 2 【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4【経理の状況】

### 1 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号。以下、「四半期連結財務諸表規則」という。）に基づいて作成しております。なお、四半期連結財務諸表規則第5条の2第2項により、四半期連結キャッシュ・フロー計算書を作成しております。

### 2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、当第1四半期連結会計期間（平成23年4月1日から平成23年6月30日まで）及び当第1四半期連結累計期間（平成23年4月1日から平成23年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、太陽A S G有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】  
 (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年 3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成23年 6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	5,977	6,441
受取手形及び売掛金	※1 10,919	※1 10,895
有価証券	500	—
商品及び製品	2,740	3,436
仕掛品	143	538
原材料及び貯蔵品	952	1,406
繰延税金資産	397	400
その他	381	402
貸倒引当金	△9	△24
流動資産合計	22,002	23,497
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	5,612	5,664
土地	11,179	11,194
その他（純額）	2,613	2,843
有形固定資産合計	19,405	19,702
無形固定資産		
のれん	507	2,839
その他	525	477
無形固定資産合計	1,033	3,317
投資その他の資産		
投資有価証券	4,412	3,291
長期貸付金	2	16
繰延税金資産	15	21
その他	1,529	1,444
貸倒引当金	△174	△176
投資その他の資産合計	5,784	4,597
固定資産合計	26,222	27,616
資産合計	48,225	51,113

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成23年6月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	4,329	4,799
短期借入金	5,418	5,838
未払法人税等	240	91
災害損失引当金	482	270
その他の引当金	546	345
その他	1,800	2,155
流動負債合計	12,818	13,500
固定負債		
長期借入金	4,232	5,282
引当金	266	283
繰延税金負債	1,704	1,714
再評価に係る繰延税金負債	1,632	1,632
その他	600	668
固定負債合計	8,436	9,582
負債合計	21,254	23,083
純資産の部		
株主資本		
資本金	11,196	11,196
資本剰余金	9,590	9,590
利益剰余金	4,933	5,548
自己株式	△1,692	△1,693
株主資本合計	24,027	24,642
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	167	188
繰延ヘッジ損益	△14	△13
土地再評価差額金	2,378	2,378
為替換算調整勘定	△59	△47
その他の包括利益累計額合計	2,472	2,505
新株予約権	41	41
少数株主持分	430	841
純資産合計	26,971	28,030
負債純資産合計	48,225	51,113

## (2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年6月30日)
売上高	7,408	8,510
売上原価	5,149	5,999
売上総利益	2,259	2,510
販売費及び一般管理費	1,933	2,099
営業利益	325	411
営業外収益		
受取利息	2	0
受取配当金	43	43
持分法による投資利益	6	11
雑収入	70	54
営業外収益合計	122	109
営業外費用		
支払利息	60	45
退職給付費用	76	76
雑損失	125	68
営業外費用合計	263	190
経常利益	185	330
特別利益		
固定資産売却益	7	0
貸倒引当金戻入額	58	—
災害損失引当金戻入額	—	90
段階取得に係る差益	—	622
抱合せ株式消滅差益	—	54
特別利益合計	65	767
特別損失		
固定資産除却損	2	3
投資有価証券評価損	138	16
災害による損失	—	79
その他	—	0
特別損失合計	141	98
税金等調整前四半期純利益	109	998
法人税等	80	80
少数株主損益調整前四半期純利益	29	918
少数株主損失(△)	△31	△13
四半期純利益	60	932

【四半期連結包括利益計算書】  
【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	29	918
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△161	20
繰延ヘッジ損益	1	0
為替換算調整勘定	△4	△14
持分法適用会社に対する持分相当額	—	25
その他の包括利益合計	△164	32
四半期包括利益	△135	951
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△103	964
少数株主に係る四半期包括利益	△31	△13

## (3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年6月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	109	998
減価償却費	335	356
のれん償却額	83	56
引当金の増減額 (△は減少)	△140	△317
受取利息及び受取配当金	△45	△44
支払利息	60	45
持分法による投資損益 (△は益)	△6	△11
為替差損益 (△は益)	0	△26
段階取得に係る差損益 (△は益)	—	△622
抱合せ株式消滅差損益 (△は益)	—	△54
固定資産売却損益 (△は益)	△7	△0
固定資産除却損	2	1
投資有価証券評価損益 (△は益)	138	16
ゴルフ会員権評価損	—	0
売上債権の増減額 (△は増加)	1,133	1,190
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△289	△398
仕入債務の増減額 (△は減少)	△68	△234
その他の資産・負債の増減額	22	120
未払消費税等の増減額 (△は減少)	△121	72
その他	3	△11
小計	1,208	1,137
利息及び配当金の受取額	61	44
利息の支払額	△63	△44
法人税等の支払額	△306	△196
営業活動によるキャッシュ・フロー	899	940
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形及び無形固定資産の取得による支出	△142	△491
有形及び無形固定資産の売却による収入	7	0
投資有価証券の取得による支出	△1	△1
関係会社株式の取得による支出	△23	—
関係会社の減資による収入	60	—
貸付けによる支出	△0	—
貸付金の回収による収入	0	0
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	—	△1,172
その他	4	△3
投資活動によるキャッシュ・フロー	△94	△1,668

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年6月30日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	109	△380
長期借入れによる収入	—	1,410
長期借入金の返済による支出	△731	△350
配当金の支払額	△0	△0
少数株主からの払込みによる収入	—	5
少数株主への配当金の支払額	△7	△5
自己株式の売却による収入	0	—
自己株式の取得による支出	△3	△0
リース債務の返済による支出	△1	△5
財務活動によるキャッシュ・フロー	△634	673
現金及び現金同等物に係る換算差額	△5	△7
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	165	△61
現金及び現金同等物の期首残高	8,642	6,476
連結除外に伴う現金及び現金同等物の減少額	△78	—
合併に伴う現金及び現金同等物の増加額	—	25
現金及び現金同等物の四半期末残高	※1 8,729	※1 6,440

【連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更】

当第1四半期連結累計期間  
(自 平成23年4月 1日  
至 平成23年6月30日)

(連結の範囲の重要な変更)

当第1四半期連結会計期間より、保土谷化学韓国株式会社を新たに設立しましたため、連結の範囲に含めております。  
SFC Co., Ltd. (韓国)の株式を追加取得し、50%超の子会社となったため、また、株式会社日本グリーンアンドガーデンの会社分割により設立した保土谷アグロテック株式会社の株式を取得し、子会社となったため、持分法適用の範囲から連結の範囲に含めております。

【会計方針の変更等】

当第1四半期連結累計期間  
(自 平成23年4月 1日  
至 平成23年6月30日)

(会計上の見積りの変更)

前連結会計年度に計上した災害損失引当金につき、当第1四半期連結会計期間において、一部について実績が確定したため、見積金額との差額を収益として認識しました。  
これにより、当第1四半期連結累計期間の税金等調整前当期純利益が、90百万円増加しております。

【四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理】

当第1四半期連結累計期間  
(自 平成23年4月 1日  
至 平成23年6月30日)

(税金費用の計算)

当連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

【追加情報】

当第1四半期連結累計期間  
(自 平成23年4月 1日  
至 平成23年6月30日)

(会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準等の適用)

当第1四半期連結会計期間の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号 平成21年12月4日)及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日)を適用しております。

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成23年6月30日)																								
<p>※1 受取手形裏書譲渡高は、58百万円であります。 2 連結子会社以外の会社等の借入金について次のとおり保証を行っております。 保証債務</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>取引先</th> <th>保証内容</th> <th>金額 (百万円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>共同過酸化水素㈱</td> <td>銀行借入</td> <td>250</td> </tr> <tr> <td>従業員</td> <td>銀行借入</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>—</td> <td>260</td> </tr> </tbody> </table>	取引先	保証内容	金額 (百万円)	共同過酸化水素㈱	銀行借入	250	従業員	銀行借入	10	合計	—	260	<p>※1 受取手形裏書譲渡高は、48百万円であります。 2 連結子会社以外の会社等の借入金について次のとおり保証を行っております。 保証債務</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>取引先</th> <th>保証内容</th> <th>金額 (百万円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>共同過酸化水素㈱</td> <td>銀行借入</td> <td>225</td> </tr> <tr> <td>従業員</td> <td>銀行借入</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>—</td> <td>235</td> </tr> </tbody> </table>	取引先	保証内容	金額 (百万円)	共同過酸化水素㈱	銀行借入	225	従業員	銀行借入	10	合計	—	235
取引先	保証内容	金額 (百万円)																							
共同過酸化水素㈱	銀行借入	250																							
従業員	銀行借入	10																							
合計	—	260																							
取引先	保証内容	金額 (百万円)																							
共同過酸化水素㈱	銀行借入	225																							
従業員	銀行借入	10																							
合計	—	235																							

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

前第1四半期連結累計期間 (自 平成22年4月 1日 至 平成22年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成23年4月 1日 至 平成23年6月30日)																				
<p>※1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係</p> <table border="1"> <tbody> <tr> <td>現金及び預金</td> <td>5,010百万円</td> </tr> <tr> <td>有価証券</td> <td>3,720百万円</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>8,730百万円</td> </tr> <tr> <td>預入期間が3か月超の定期預金</td> <td>△1百万円</td> </tr> <tr> <td>現金及び現金同等物</td> <td>8,729百万円</td> </tr> </tbody> </table>	現金及び預金	5,010百万円	有価証券	3,720百万円	計	8,730百万円	預入期間が3か月超の定期預金	△1百万円	現金及び現金同等物	8,729百万円	<p>※1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係</p> <table border="1"> <tbody> <tr> <td>現金及び預金</td> <td>6,441百万円</td> </tr> <tr> <td>有価証券</td> <td>—百万円</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>6,441百万円</td> </tr> <tr> <td>預入期間が3か月超の定期預金</td> <td>△1百万円</td> </tr> <tr> <td>現金及び現金同等物</td> <td>6,440百万円</td> </tr> </tbody> </table>	現金及び預金	6,441百万円	有価証券	—百万円	計	6,441百万円	預入期間が3か月超の定期預金	△1百万円	現金及び現金同等物	6,440百万円
現金及び預金	5,010百万円																				
有価証券	3,720百万円																				
計	8,730百万円																				
預入期間が3か月超の定期預金	△1百万円																				
現金及び現金同等物	8,729百万円																				
現金及び預金	6,441百万円																				
有価証券	—百万円																				
計	6,441百万円																				
預入期間が3か月超の定期預金	△1百万円																				
現金及び現金同等物	6,440百万円																				

(株主資本等関係)

I 前第1四半期連結累計期間 (自 平成22年4月 1日 至 平成22年6月30日)

配当に関する事項

配当金支払額

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配 当額 (円)	基準日	効力発生日
平成22年5月10日 取締役会	普通株式	利益剰余金	316	4	平成22年3月31日	平成22年6月30日

II 当第1四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年6月30日)

配当に関する事項

配当金支払額

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配 当額 (円)	基準日	効力発生日
平成23年5月13日 取締役会	普通株式	利益剰余金	316	4	平成23年3月31日	平成23年6月30日

(企業結合等関係)

当第1四半期連結会計期間(自平成23年4月1日至平成23年6月30日)

1. 平成23年4月25日開催の取締役会において、SFC Co., Ltd. (以下、SFC社)の株式の追加取得を決議し、5月24日に同社を連結子会社化いたしました。

1) 企業結合の概要

(1) 被取得企業の名称およびその事業内容

被取得企業の名称 SFC Co., Ltd.

事業の内容 有機EL素子材料および精密化学品の製造・販売

(2) 企業結合をおこなった主な理由

平成22年9月にSFC社株式の33.8%を取得し、有機EL材料分野において両社の強みを融合させ、研究開発や営業面において、共同展開を図ってまいりました。その後、ディスプレイ業界の拡大に伴い、有機EL材料市場も伸長しており、また、照明分野への応用も始まりつつあります。

こうした環境下、有機ELの主要マーケットである韓国において、開発・生産・販売面で優位に立つためには、さらなる顧客情報収集力、提案力、購買・生産面での連携などの強化が必須であると判断いたしました。

(3) 企業結合日

平成23年6月30日

(4) 企業結合の法的形式

株式の追加取得

(5) 結合後企業の名称

SFC Co., Ltd.

(6) 取得した議決権比率

65.5%

(7) 取得企業を決定するに至った主な根拠

当社がSFC社の議決権のうち、65.5%を取得したため。

2) 四半期連結累計期間に係る四半期連結損益計算書に含まれる被取得企業の業績の期間

平成23年6月30日をみなし取得日としているため、当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結損益計算書上、被取得企業の業績は、持分法による投資利益のみ計上しております。

3) 被取得企業の取得原価およびその内訳

取得の対価	現金	1,383百万円
	結合直前に保有していた、 SFC社の普通株式の企業結合日における時価	1,430百万円
取得原価		2,814百万円

4) 段階取得に係る損益の金額

432百万円

5) 発生したのれんの金額、発生原因、償却方法および償却期間

のれん 2,198百万円

発生原因 被取得企業に係る当社の持分額と取得原価との差額により発生した、超過収益力であります。

償却方法 定額法

償却期間 5年

2. 保土谷化学工業株式会社（以下、保土谷化学）と住友化学株式会社（以下、住友化学）は、平成23年4月1日付で、両社の合弁会社である株式会社日本グリーンアンドガーデン（以下、日本G&G）を、「保土谷アグロテック株式会社（以下、保土谷アグロテック）」と分割後の日本G&Gとに再編いたしました。これにより、保土谷アグロテックは保土谷化学の連結子会社となっております。また、日本G&Gは、住友化学の連結子会社となっております。

1) 企業結合の概要

(1) 被取得企業の名称およびその事業内容

被取得企業の名称 保土谷アグロテック株式会社  
事業の内容 家庭園芸・林地・鉄道分野への、農薬・資材の製造・販売

(2) 企業結合を行なった主な理由

家庭園芸分野で、価格競争激化、ゴルフ場分野での景気低迷による安価薬剤へのシフトなど、取り巻く環境は厳しくなっております。

このような状況下、家庭園芸・林地・鉄道分野向け、ゴルフ場分野向けの農薬・資材事業を、それぞれ将来に向け一段と発展させていくために、より迅速かつ機動性を有する開発力や販売力を兼ね備えた、効率的な事業運営が必要であると判断いたしました。

(3) 企業結合日

平成23年4月1日

(4) 企業結合の法的形式

会社分割（分割型新設分割）および株式取得

(5) 結合後企業の名称

保土谷アグロテック株式会社

(6) 取得した議決権比率

80%

(7) 取得企業を決定するに至った主な根拠

当社が保土谷アグロテックの議決権のうち、80%を取得したため。

2) 四半期連結累計期間に係る四半期連結損益計算書に含まれる被取得企業の業績の期間

平成23年4月1日から平成23年6月30日まで。

3) 被取得企業の取得原価およびその内訳

取得の対価	日本G&Gの普通株式	404百万円
	現金	212百万円
取得原価		616百万円

4) 株式の種類別の交換比率およびその算定方法並びに交付した株式数

(1) 株式の種類別の交換比率

保土谷アグロテックの普通株式 1.00株：日本G&Gの普通株式 2.40株

(2) 株式交換比率の算定方法

フィナンシャル・アドバイザーに株式交換比率の算定を依頼し、提出された報告書に基づき、当事者間で協議の上、算定。

(3) 交付した株式数

630株

5) 段階取得に係る損益の金額

189百万円

6) 発生したのれんの金額、発生原因、償却方法および償却期間

のれん金額 190百万円

発生原因 被取得企業に係る当社の持分額と取得原価との差額により発生した、超過収益力であります。

償却方法 定額法

償却期間 5年

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間（自 平成22年4月1日 至 平成22年6月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント					その他	合計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額
	機能性色素	機能性樹脂	基礎化学品	アグロ サイエンス	計				
売上高									
(1)外部顧客に 対する売上高	2,296	2,472	2,072	207	7,048	360	7,408	—	7,408
(2)セグメント間 の内部売上高 又は振替高	0	15	—	—	15	168	184	(184)	—
計	2,296	2,487	2,072	207	7,063	529	7,592	(184)	7,408
セグメント利益 又は損失(△)	149	79	159	△135	252	74	326	(1)	325

(注1) 各セグメントの主な製品

(1)機能性色素・・・トナー用電荷制御剤、有機光導電体材料、有機EL材料、各種染料等

(2)機能性樹脂・・・ウレタン系及びセメント系各種建築土木用材料、

P T G（ウレタン原料）、一般化学工業用基礎原料等

(3)基礎化学品・・・過酸化水素等

(4)アグロサイエンス・・・農薬原体・製剤等

(注2) 「その他」は、報告セグメントに含まれない区分であり、倉庫業及び貨物運送取扱業、研究受託業務等を含んでおります。

(注3) セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益であります。

(注4) セグメント利益の調整額△1百万円は、セグメント間取引消去であります。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

Ⅱ 当第1四半期連結累計期間（自 平成23年4月1日 至 平成23年6月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	報告セグメント					その他	合計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額
	機能性色素	機能性樹脂	基礎化学品	アグロ サイエンス	計				
売上高									
(1)外部顧客に 対する売上高	2,288	2,801	1,856	1,238	8,185	324	8,510	—	8,510
(2)セグメント間 の内部売上高 又は振替高	0	11	3	—	14	175	190	(190)	—
計	2,288	2,813	1,860	1,238	8,200	500	8,700	(190)	8,510
セグメント利益	177	92	63	27	362	51	414	(3)	411

（注1） 各セグメントの主な製品

(1)機能性色素・・・トナー用電荷制御剤、有機光導電体材料、有機EL材料、各種染料等

(2)機能性樹脂・・・ウレタン系及びセメント系各種建築土木用材料、

PTG（ウレタン原料）、一般化学工業用基礎原料等

(3)基礎化学品・・・過酸化水素等

(4)アグロサイエンス・・・農薬原体・製剤等

（注2） 「その他」は、報告セグメントに含まれない区分であり、倉庫業及び貨物運送取扱業、研究受託業務等を含んでおります。

（注3） セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益であります。

（注4） セグメント利益の調整額△3百万円は、セグメント間取引消去であります。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

（のれんの金額の重要な変動）

「機能性色素」セグメントにおいて、当第1四半期連結累計期間にSFC Co.,Ltd.（韓国）の株式を取得し、連結の範囲に含めたため、のれんが発生しております。

なお、当該事象によるのれんの増加額は、2,198百万円であります。

「アグロサイエンス」セグメントにおいて、当第1四半期連結累計期間に

保土谷アグロテック株式会社の株式を取得し、連結の範囲に含めたため、のれんが発生しております。

なお、当該事象によるのれんの増加額は、180百万円であります。

(1 株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成22年4月 1日 至 平成22年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成23年4月 1日 至 平成23年6月30日)
(1) 1株当たり四半期純利益金額	0円77銭	11円78銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額 (百万円)	60	932
普通株主に帰属しない金額 (百万円)	—	—
普通株式に係る四半期純利益金額 (百万円)	60	932
普通株式の期中平均株式数 (千株)	79, 114	79, 103
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額	0円76銭	11円77銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益調整額 (百万円)	—	—
普通株式増加数 (千株)	110	70
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要	—	—

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

## 2【その他】

第153期(平成22年4月1日から平成23年3月31日まで)期末配当については、平成23年5月13日開催の取締役会において、平成23年3月31日の最終の株主名簿に記録された株主に対し、次のとおり期末配当を行うことを決議いたしました。

- ① 配当金の総額 316百万円
- ② 1株当たりの金額 4円
- ③ 支払請求権の効力発生日及び支払開始日 平成23年6月30日

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

# 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成23年8月9日

保土谷化学工業株式会社  
取締役会 御中

太陽A S G 有限責任監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 大村 茂 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 竹原 玄 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている保土谷化学工業株式会社の平成23年4月1日から平成24年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（平成23年4月1日から平成23年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成23年4月1日から平成23年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

## 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

## 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

## 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、保土谷化学工業株式会社及び連結子会社の平成23年6月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

## 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注1) 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

(注2) 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。

## 【表紙】

【提出書類】	確認書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の8第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成23年8月11日
【会社名】	保土谷化学工業株式会社
【英訳名】	Hodogaya Chemical Co., Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 喜多野 利和
【最高財務責任者の役職氏名】	取締役常務執行役員 廣田 秀世
【本店の所在の場所】	東京都港区芝公園二丁目4番1号
【縦覧に供する場所】	保土谷化学工業株式会社大阪支店 (大阪市中央区高麗橋四丁目1番1号) 株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

1 【四半期報告書の記載内容の適正性に関する事項】

当社代表取締役社長 喜多野利和及び当社最高財務責任者である取締役常務執行役員 廣田秀世は、当社の第154期第1四半期（自 平成23年4月1日 至 平成23年6月30日）の四半期報告書の記載内容が、金融商品取引法令に基づき、適正に記載されていることを確認いたしました。

2 【特記事項】

確認に当たり、特記すべき事項はありません。